



この夏休み、行楽地や親戚のところへ車で出掛ける子はあるかな？ せっかくの楽しいドライブも自動車がトラブルに見舞われると台無しになってしまいます。日本自動車連盟（JAF）で中学生記者は、車で困っている人を助けるロードサービス隊員らのお仕事を取材してきました。

JAFの隊員



車の「困った」に急行



池戸さんのお話を聞く中学生記者



⑤他のドライバーから見やすい反射材を身に付けて安全確保する ⑥さまざまなトラブルに対応できるように車に積み込まれた道具



忙しいときは電話対応もする藤ノ木光彦さん

き忘れた、タイヤがパンクした、故障や事故などトラブルはさまざま。電話を取った受付員はトラブルの内容、現在地、車の種類などを聞き取り、指令員に報告。指令員が現場に近い車に向かうよう指

導します。指令員は「一人の隊員がどんなトラブルにも対応できるようにします」と話します。車のトラブルは一年中、どんな時間にも発生するため、時間帯も曜日にも不規則な勤務

（四）は「仕事が入ると指令員が携帯電話のメールでも知らせてきます。すぐ準備して出動します」と言います。トラブル内容によってライトバンやレッカー車、荷台に車を積める積載車に乗って現場に急行。「猫の鳴き声がある」と言われ、車の内部に挟まっていた猫を見つけ出して救助したという珍しい経験もあれば、高速道路での故障や赤ちやんが閉じこめられた車の鍵開けなど一刻を争う現場もあります。

レッカー車も操作

仕事はさまざまな道具を使い分け、レッカー車の操作なども覚えなければなりません。隊員の福田洋也さん（四）は「一人の隊員がどんなトラブルにも対応できるようにします」と話します。

ら、敬語や丁寧な言葉遣いができる人が向いています。また電話の受け付けはパソコンを操作しながら進め

ますので、パソコンを使う能力が高い方がいいです。ロードサービス隊員になるには自動車整備士の資格が

あるといいですが、入ってからでも取得できます。真夏の炎天下は軽作業でもつらいので、体力も必要です。